

## 平成 26 年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

### 1. はじめに

永年にわたる医療費抑制政策のもと、ますます高度化、専門分化した医療情勢は大変重要な時期を迎えており、医療安全対策、医師不足と過重労働、研修医の指導や自らの生涯教育のあり方など、勤務医を取り巻く問題は多岐に渡っている。いずれの問題もこのままでは放置できない状況となってきたが、勤務医部会としては、この危機的状況を乗り切るためにも、勤務医部会幹事会を活動拠点として、種々の問題解決に向け取組み、さらに女性医師の抱える勤務環境の問題を専門に協議する場として、女性医師ワーキンググループを設け、活動している。

### 2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来 31 年を迎えた。平成 27 年 1 月 1 日現在の部会員数は、1,684 名で昨年より 8 名の減となり、京都府医師会総会員中、40.9%を勤務医部会員が占めている。これは全国平均の 51.2%（26 年 11 月現在での日医集計による）と比べて低い状況にあり、京都府内に従事する勤務医の約 3 分の 2 が医師会に未加入であることを考えると、依然、組織率が低迷していると言わざるを得ない。

過去 5 年間の勤務医部会員数の推移

年	勤務医部会員数	京都府医師会総会員数	割合
平成 27 年	1,684 名	4,120 名	40.9%
平成 26 年	1,692 名	4,125 名	41.0%
平成 25 年	1,707 名	4,154 名	41.1%
平成 24 年	1,735 名	4,204 名	41.3%
平成 23 年	1,716 名	4,216 名	40.7%

※基準日：1 月 1 日現在

### 3. 部会役員に関する件

森勤務医部会長ののもと、幹事長に内藤和世氏、副幹事長には安田健治朗氏、若園吉裕氏、吉田憲正氏、紀田康雄氏にご就任いただいた。今期の役員は以下のとおり。なお、任期は府医役員に準じ平成 27 年 6 月定時代議員会まで。

役職	氏名	医療機関	備考
部会長	森 洋一	森小児科医院	
幹事長	内藤 和世	京都市立病院	
副幹事長	安田 健治朗	京都第二赤十字病院	
〃	吉田 憲正	京都第一赤十字病院	
〃	若園 吉裕	京都桂病院	
〃	紀田 康雄	第二岡本総合病院	
幹事	白方 秀二	社会保険京都病院	
〃	牛嶋 千久	京都第二赤十字病院	～26.6 月
〃	衛藤 美穂	京都第二赤十字病院	26.7 月～
〃	相良 幸彦	堀川病院	
〃	新谷 弘幸	京都市立病院	
〃	吉波 尚美	京都市立病院	
〃	大内 能子	京都逡信病院	～26.3 月
〃	二宮 清	洛和会丸太町病院	
〃	清水 聡	京都南病院	

//	盛岡 茂文	武田病院	
//	大越 香江	日本バプテスト病院	
//	谷川 徹	北山病院	
//	森村 達夫	宇多野病院	
//	松井 淑江	京都桂病院	
//	岡田 憲幸	三菱京都病院	
//	巨島 文子	京都第一赤十字病院	
//	閑 啓太郎	愛生会山科病院	
//	土谷 美知子	洛和会音羽病院	
//	近藤 摂子	洛和会音羽病院	～26.5月
//	徳永 千恵美	洛和会音羽病院	26.5月～
//	橋本 哲男	医仁会武田総合病院	
//	秋山 祐一	京都医療センター	
//	高尾 由美	京都医療センター	
//	中嶋 俊彰	済生会京都府病院	
//	宮嶋 敬	宇治武田病院	
//	高橋 潤	宇治病院	
//	新井 正弘	京都山城総合医療センター	
//	上田 和茂	亀岡市立病院	
//	小倉 卓	公立南丹病院	
//	鴻巣 寛	綾部市立病院	
//	太田 努	市立福知山市民病院	
//	下山 恵司	京都ルネス病院	
//	竹内 一雄	舞鶴共済病院	
//	法里 高	舞鶴医療センター	
//	中川 正法	京都府立医科大学附属北部医療センター	
//	福田 和彦	京都大学医学部附属病院	
//	小川 修	京都大学医学部附属病院	
//	松村 由美	京都大学医学部附属病院	
//	藤原 斉	京都府立医科大学附属病院	
//	中西 正芳	京都府立医科大学附属病院	
//	外園 千恵	京都府立医科大学附属病院	

#### 4. 幹事会・正副幹事長会の開催

26年度は2回の幹事会と1回の前期正副幹事長会を開催し、職場環境やキャリアパスの問題点、総会の運営等について協議した。

開催日	会合名	協議事項
26.5.8	前期正副幹事長会	(1) 京都府医師会勤務医部会設立30周年記念事業について (2) 平成26年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催について (3) 今期勤務医部会幹事会の進め方
26.7.19	幹事会	(1) 京都府医師会勤務医部会設立30周年記念事業について (2) 京都医報『勤務医通信』の執筆予定について (3) ディスカッション（専門医制度・研修医の削減問題について）
26.11.15	幹事会	(1) 「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者、管理者等への講習会」の開催について (2) ディスカッション (総合診療専門医および専門医制度の改正について)

## 5. 女性医師ワーキンググループの開催

勤務医部会では、女性医師支援策の具体的な検討を進めるために、女性勤務医 11 名を幹事として委嘱し、女性医師WGを設置し、今年度は2回開催した。

開催日	会合名	協議事項
26. 7. 19	女性医師WG	(1) 第6回医学生・研修医をサポートする会について (2) 「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会」の開催について (3) 「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会ーよりよい男女共同参画を目指して」の参加について (4) ホームページ「子育て医師支援情報」について
26. 11. 15	女性医師WG	(1) ホームページ「子育て医師支援情報」について (2) 日本医師会女性医師支援センター事業近畿ブロック会議について

## 6. 女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会の開催

女性医師に対しどのようなサポートを行うべきか、また女性医師が希望をもって働き続けられるような支援をいかに行うべきかを考える一助とすべく、日本医師会等と共催で下記のとおり講習会を開催した。

平成 26 年度 女性医師の勤務環境の整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会

と き 平成 27 年 2 月 19 日 (木) 午後 2 時～4 時

ところ 府医会館

講演 「勤務医のワークライフバランスを考える」

京都府医師会勤務医部会幹事長

京都市立病院院長

内藤 和世 氏

パネルディスカッション

「周産期医療における女性医師の役割」

医療法人財団 足立病院 院長

畑山 博 氏

「医師が辞めない病院の作り方」

日本バプテスト病院

大越 香江 氏

共 催 京都府医師会、日本医師会

後 援 京都私立病院、京都府病院協会

出 席 = 47 名

## 7. 府医各種委員会委員等への推薦

今期、勤務医部会から府医各種委員会の委員として下記 3 委員会に 3 名の幹事を推薦し、各委員会にて勤務医の意見が反映されるよう意見具申していただいた。

◆ 医業経済・融資斡旋委員会 紀田 康雄 副幹事長

◆ 情報・企画広報委員会 巨島 文子 幹事

◆ 学術・生涯教育委員会 秋山 祐一 幹事

また、勤務医部会会員数が府医会員総数の 40%以上を占める中で、府医代議員 104 名中、勤務医の代議員数は 7 名、京大および府立医大の計 3 名を加えても計 10 名と、その比率は 9.6%であり、勤務医の意見が府医の会務執行に届きにくい状況といえ、この点は今後の課題と言える。

## 8. 京都府医師会への入会促進

京都府医師会入会促進事業の一環として、勤務医向けの入会パンフレットを作成し、各方面で配付した。

## 9. 乳がん検診などへの出務医師の派遣

地域医療活動として、京都府医師会乳がん検診委員会と調整の上、出務医師の派遣を行っており、今年度は京都市内（2地区）において勤務医を派遣した。

## 10. 第40回京都医学会への演題発表

平成26年9月28日（日）に開催された第40回京都医学会では勤務医から75題もの演題発表があり、医学会を盛り上げた。

## 11. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として掲載した。

## 12. 全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

平成26年10月25日（土）、神奈川県横浜市で開催された平成26年度全国医師会勤務医部会連絡協議会（神奈川県医師会主管）に内藤幹事長、紀田副幹事長および上田府医理事、事務局が参加した。協議会はメインテーマを「地域医療再生としての勤務医～地域医療における総合診療医の役割～」とし、総合診療医の現状、総合診療医に対して望むことなど、地域医療再生に向けた勤務医における役割について発表があり、フロアからの質疑応答も含めて、活発な議論がなされた。なお、協議会当日には下記の「かながわ宣言」が提案された。

### かながわ宣言

高齢化の進展や高度医療への対応に向けて、総合診療専門医の育成をはじめとする専門医研修制度のさらなる充実が求められている。また、地域で必要な医療を確保するため、今後、病床機能報告制度に基づくデータ等により、各都道府県が地域の特性に配慮しながら作成する地域医療構想（ビジョン）に基づいて、地域住民の生命・健康を守っていくための施策が展開されていくことになる。

このような取り組みが適切に遂行されていくためには、地域医師会が中心的な役割を担い、積極的に関与していくことが期待される。

以上を踏まえ、勤務医と地域医師会の協働による地域医療の再生に向けて、次のことを宣言する。

- 一、新たな専門医制度では、客観的且つ透明性のある基準を定めて運用し、医療の質の向上に資すること。
- 一、専門医研修中の出産育児介護等が、専門医取得に不利益にならないよう制度設計を図ること。
- 一、地域医療構想（ビジョン）の作成にあたっては、勤務医をはじめとする全ての医師の意見を広く汲み取りながら、地域の実情に即した形での“まちづくり”を行っていくこと。

平成26年10月25日

全国医師会勤務医部会連絡協議会・神奈川